

平成 27 年度避難者アンケート調査の結果について【概要】

1 調査の概要

- (1) 調査対象 東日本大震災に伴い本県に避難した 1,291 世帯 (H26 : 1,706 世帯)
- (2) 調査方法 郵送によるアンケート調査
- (3) 調査期間 平成 27 年 8 月中旬 ~ 9 月中旬
- (4) 集計数 445 件 (H26 : 551 件)
- (5) 回収率 34.5% (H26 : 32.3%)

2 調査結果のポイント

- (1) 今の生活で困っていること・不安なことは、「生活資金」が最多、今後期待する支援は、「住宅に関すること」が最多
 - ・困っていること・不安なことは、①「生活資金 (66.3%)」、②「住まい (49.9%)」の順。対前年比では、「生活資金」が+2.6 ポイント、「住まい」が+2.4 ポイント。
 - ・住居に関して困っていることは、①「入居期限があること (50.6%)」、②「住み替えが認められないこと (33.0%)」の順で、借上げ住宅に関する項目が上位。
 - ・今後期待する支援は、「住宅に関すること (53.5%)」が最多。
- (2) 今後の生活について、定住先の予定は、「わからない・未定」が約 4 割で最多
 - ・定住先の予定については、①「わからない、未定 (40.7%)」、②「山形県内に定住したい (28.3%)」、③「避難元の県に戻りたい (20.7%)」の順。
 - ・避難期間の見通しは、「子供の入学、入園や卒業、卒園まで (22.8%)」が最多。
 - ・避難元の県へ帰還する場合に心配なことは、「放射線の影響(58.6%)」が最多。続いて「住まいのこと(42.9%)」、「仕事のこと(42.5%)」の順。
- (3) 地域の行事やイベントに参加したことがある世帯は約 6.5 割
 - ・参加状況は、「ある (65.8%)」、「ない (33.5%)」。世帯類型別では、子どもがいる世帯は 76.7%、子どもがいない世帯は 50.4%、高齢者世帯は 46.7%が参加あり。
- (4) 約 8 割の避難者が心身に何らかの不調
 - ・心身の不調が「特にない」方は約 2 割にとどまっており、約 8 割の方は依然として心身に何らかの不調を抱えている。
 - ・内訳は、①「疲れやすく体がだるい (40.2%)」、以下、②「イライラする」、③「孤独を感じる」、④「よく眠れない」、⑤「憂うつで気分が沈みがち」と心の不調に関する項目が続く。
- (5) 県、市町村、ボランティア団体等による避難者支援は、約 9 割が評価
 - ・避難者支援について、約 9 割の方が「評価する」、「どちらかといえば評価する」と回答。